


令和6年度（2024年度）学校版環境ISOへの取組

< 学校名：菊池市立七城中学校 >

2 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言	<p>1 私たちは学校の環境美化に取り組みます。</p> <p>2 私たちは地域の環境保全に取り組みます。</p>	<p>生徒会執行部を中心に学校版環境 ISO の活動内容について確認するとともに本年度の取組内容を考えた。そこで、今年度はビオトーププロジェクトチームを発足させ、環境委員会と協力し、ホタルの舞う七城中ビオトープ完成を目標に、環境美化に努めることを大きな目標として設定した。</p>
行動	    	<p>【生徒会活動】</p> <p>(1) 学校の環境美化に向けた取組</p> <p>①無言清掃 常任委員会ごとに学年縦割り班を編制し掃除分担を行った。3年生がリーダーとなり10分間の無言清掃に取り組んだ。生徒たちは次第に掃除に集中するようになり、生活環境を清潔に保つことの大切さを学ぶことができた。</p> <p>②花壇整備 環境委員会が花壇整備の年間の計画をたて、菊池農業高校と連携した花植えをし、全校生徒で花壇の手入れを行った。</p> <p>(2) 地域の環境保全に向けた取組</p> <p>①植物の栽培 伝統的な学校行事である米作りや菊の栽培、学校ビオトープの取組などを通して、植物と環境の関係を学ぶことができた。 学校ビオトープに関しては、地域と連携し、「せせらぎ30」と銘うち、中庭の30mの流水路を施工した。 ビニール張り、コンクリート施工を各学級に作業区域割り当てして活動を行った。</p> <p>②省エネルギーの活動 電気やエアコンの節電は、生徒会の日常活動として習慣化に取り組んだ。給食委員会の残さいゼロ運動やごみの分別など、期間を設定し集中して取り組むことができた。</p> <p>【職員】 生徒会活動の充実のために、年間計画の工夫・改善と支援に取り組んだ。また、職員室のごみの減量化と分別、印刷室の整理整頓や裏紙の活用、電気やエアコンの節約も定期的に声掛けをしながら意識化を図った。 また、米作りは、職員自身も地域に学びながら環境について考えることのできる貴重な学校行事となっている。</p>

記録		<p>生徒会執行部の年間活動計画についての記録や、常任委員会の活動をポスター掲示するとともに、生徒集会で定期的に現状を伝え周知を図った。生徒会を中心にビオトープ流水路30mの完成式を行うことができた。</p>
見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部および常任委員会の年間反省に基づいた見直し ○常任委員会の活動の見直し ○学校版環境ISOについての周知 	<p>年度末の生徒会役員リーダー研修の中で、常任委員会の活動内容を見直すとともに、学校版環境ISOについて学習する機会を設定する。その中で、各委員会で分担して取り組んでいく宣言内容を決定し、次年度の委員会活動に盛り込んでおくことで、活動を確実に実施していくことができる。数値目標や検証方法についても計画しておき、新年度につなぐことが必要である。</p>

(2) 成果と課題

成 果	課 題
<p>常任委員会等で、新しい活動に取り組み、生徒一人ひとりが学校美化に興味を持っている姿を見ることができ、成果はあがってきている。特に伝統行事となっている米作りは、苗作りから収穫祭まで一連の流れで行うことができた。家庭や地域と連携した取組として根付いてきている。</p> <p>また、全校生徒で取り組んだ中庭流水路が完成した。委員会でも積極的に関わっている姿を見ることができた。</p>	<p>それぞれに取組を進めているものの、学校全体としての組織化が図られていないことが課題である。生徒会役員と教職員が一緒になって、成果や課題を共有しながら次年度に向けた取組について計画する機会を設定することが必要である。</p> <p>また、ビオトープでは動植物の育成を行うため、教職員が興味関心を持ち環境に関する意識を高めていく必要がある。</p>